

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 高知県教育委員会

所 在 地 高知県高知市丸ノ内1丁目7-52

代 表 者 職 氏 名 高知県教育長 田村 壮児

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	こうちけんりつ こうちにし こうとうがっこう	ふりがな	まつぎ ゆうすけ
学校名	高知県立高知西高等学校	校長名	松木 優典
ふりがな	なんこくしりつ こうなん ちゅうがっこう	ふりがな	まつうら まもる
学校名	南国市立香南中学校	校長名	松浦 守
ふりがな	なんこくしりつ にっしょう しょうがっこう	ふりがな	まつお としかず
学校名	南国市立日章小学校	校長名	松尾 寿一
ふりがな	なんこくしりつ おおみなと しょうがっこう	ふりがな	おかだ けんじ
学校名	南国市立大湊小学校	校長名	岡田 兼治

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

国際化時代に必要なコミュニケーション能力を育成するため、小学校第2学年で外国語活動を、第3学年から教科としての「英語科」を新設した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校・高等学校の教育課程との円滑な接続の在り方についての研究開発

(2) 研究の概要

本強化地域の小中学校では、平成21年度から文部科学省指定「英語教育改善のための調査研究事業」、「英語教育研究開発事業」を受け、小学校第4学年から週1コマの「英語科」を実施してきた。その間、児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく参加でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、育ってきている。しかし、小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を中・高等学校において生かすことが十分ではなく、児童生徒の学びの連続性や指導方法の円滑な接続に課題があると考ええる。

このことから、本強化地域においては小学校第2学年で外国語活動を、小学校第3学年から教

科としての「英語科」を新設し、学習内容の系統性、指導方法の継続性及び「読む・書く」指導の段階的な導入をさらに研究することで、小中高の滑らかな接続と4技能の発達段階に応じた育成を図ることができる考える。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本中学校区における児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく取り組み、積極的に友だちともコミュニケーションを図ろうとすることができる。しかし、小学校での学びや活動が中・高等学校の英語学習に効果的に接続し、英語の学力が向上しているとは言えない。また、英語を使うことを目的としたコミュニケーション能力の育成を目指した目標の一貫性に課題がある。

このことから、小学校での英語科を新設し、小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での発達段階に応じた、「聞くこと」「話すこと」を重点に、「読むこと」「書くこと」も含む4技能を育成する。

②研究仮説

小学校での英語科を新設し、教育課程（「読むこと」「書くこと」の導入時期や指導方法の研究含む）、評価規準等を児童の発達段階や中・高等学校の接続を見据えて作成し実践することで、小中高の英語教育の連続性のある学びが生まれ、児童生徒の英語を使ったコミュニケーション能力が向上するだろう。

具体的には、①小学校「英語科」のカリキュラムの作成（「読むこと」「書くこと」の導入時期と方法の研究を含む）、②児童の意欲を高める学習評価の在り方、③小中高をつなぐ系統的なカリキュラム作成（CAN-DO リスト形式の学習到達目標の設定）、④中学校での指導内容の高度化等について、研究を深める。

③研究成果の評価方法

○小中高の効果的な接続を図った教育課程の作成

○児童生徒・教職員への意識調査（年2回）

○児童英検・標準学力調査、高知県学力定着状況調査及び英語検定の実施

小学校においては、児童英検取得率85%以上、意識調査の肯定的評価90%以上を目指す。中学校においては、中学校1年生で5～4級、2年生で4～3級、3年生で3～準2級を目標として、個々の能力に応じた級の合格をめざし、平成29年度に3年生の英語検定3級取得率80%をめざす

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第2学年 1コマ	第2学年 1コマ	第2学年 1コマ	第2学年 1コマ
②小学校 教科型	第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ

(5) 研究計画（下線部は、研究の重点）

	一年次	<p>○第2・3学年 外国語活動 年間35時間＜自主教材＞ ○第4～6学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!1、2”、自主教材＞</p> <p>◆学校全体で取り組み、効果的な小中・小中連携を図るための組織を構築する。 ◆教員の指導力向上のための校内研修の持ち方についての共有を図る。 《例》教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。 ◆<u>目標と評価の一体化や付けたい力を明確にした単元計画の見直しを図る。</u> 《例》中学校との接続を考えた小学校段階でのCAN-DOリストの作成。 《例》時数増分で児童の意欲や興味を高める指導方法の工夫を図り、定着を目指す。</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのT-T</p> <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ・国の中央研修への推進リーダーの参加と成果普及 ・県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講と校内への伝達</p> <p>◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 ・県事業における公開授業及び県連絡協議会</p>
小学校	二年次	<p>○第2学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞ ○第3学年 英語科 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞ ○第4～6学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、カリキュラムを改善する。 ◆<u>発達段階に応じた「読むこと・書くこと」の指導の系統について研究する。</u> 《例》発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◆<u>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u> 《例》目標を達成させるための評価規準や評価方法の計画を立てる。</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのT-T</p> <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師</p>
	三年次	<p>○第2学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞ ○第3学年 英語科 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞ ○第4～6学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆中学校への接続における効果的な指導について研究する。 《例》小中連携の指導体制の工夫等</p> <p>◆<u>発達段階に応じた「読むこと・書くこと」の指導の系統について研究する。</u> 《例》発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p>

小学校	三年次	<p>◆<u>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u> 《例》児童生徒の意欲を高める評価ポートフォリオの作成。</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員との T-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師
	四年次	<p>○第2学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第3学年 英語科 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第4～6学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆<u>検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえ、これまでの研究成果と課題をまとめる。</u></p> <p>◆<u>中学校への効果的な接続期の指導について研究する。</u></p> <p>◆<u>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u>（第3年次に引き続き）</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員との T-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師
中学校	一年次	<p>◆<u>効果的な小中連携を図るための組織を構築する。</u></p> <p>◆<u>CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。</u></p> <p>◆<u>「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。</u> 《例》場面設定や既習事項のスパイラルな活用を考えたゴールの工夫</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及び T-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員との T-T <p>◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	二年次	<p>◆<u>検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</u></p> <p>◆<u>小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6一中1の接続プログラムの作成を行う。</u></p> <p>◆<u>授業での生徒・教員の英語使用量を上げるための研究を行う。</u> 《例》「授業を英語で行う」ための言語活動の見直しや研究計画作成</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及び T-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員との T-T <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会

中学校	三年次	<p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆高等学校との滑らかな接続を考慮したプログラムを作成する。 《例》授業を英語で行うことや、より実践的・オーセンティックな言語活動の導入。</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及びT-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員とのT-T <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	四年次	<p>◆検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究成果と課題をまとめる。</p> <p>◆小・中・高等学校との連続性・系統性をもったカリキュラムの作成</p> <p>◆高等学校との接続プログラムを運用する。（第三年次作成）</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及びT-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員とのT-T <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
高等学校	一年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。</p> <p>◆教科書の単元構想の研究 学習到達目標に照らし合わせて、教科書の各単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	二年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	三年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観及びT-T・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

四年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆教科書の単元構想の研究 ◇強化地域内の小中学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及びT・T・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観及びT・T・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） ◇研究成果の発信・普及 <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
-----	---

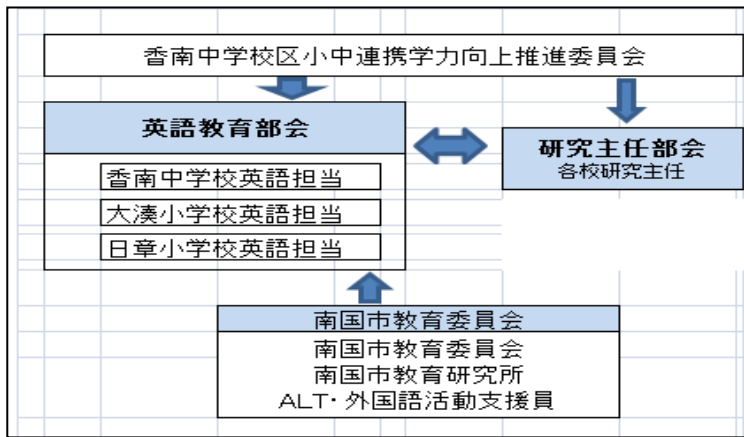
(2) 平成26年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

日章小学校・大湊小学校

◆学校全体で取り組み、効果的な小小・小中連携を図るための組織を構築する。

香南中学校区に小中連携学力向上推進委員会及び英語教育推進委員会を設置し、小中・小小連携による児童生徒の学びの連続性や円滑な接続した指導方法の研究を進めている。



◆教員の指導力向上のための校内研修のもち方についての共有を図る。

英語担当は校内でも研究部に属し、研究主任等と連携して教員の指導力・英語力向上のために研修会を計画的に実施している。

- ・日章小では年間6回、大湊小では年間3回の研究授業および長期休暇中の研修を実施している。（外部講師の招聘）
- ・クラスルームイングリッシュを中心とする英語運用能力の向上を目指し、日常的に研修している。
- ・教職員の意識調査（6月実施）をもとに、HRTの不安をできるだけ払拭できるように様々な活動を紹介する研修や、クラスルームイングリッシュの研修等を行っている。

◆目標と評価の一体化や付けたい力を明確にした単元計画の見直しを図る。

- CAN-DOリスト作成／カリキュラムの再編成
 - 小3～中3までの英語科としての「CAN-DOリスト形式の到達度目標」を作成し、年間計画、単元計画の作成や評価の実施に生かしている。
- 「読むこと」「書くこと」の導入時期と指導方法（発達段階に応じた指導計画の作成と実践）

1・2年	・歌やゲームで大文字に親しむ
3年	・アルファベットの大文字・小文字を識別する⇒帯で「歌、カード並べ」
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの各文字には音があることを知り、音をつないで身近な単語を読む。「子音+母音+子音」の単語（cat, dog など） ⇒フォニックスの基礎（C, ccc classroom） ・音と文字を一致させながら文字を書く。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な単語を読んだり試写したりする。 ⇒「絵+文字」でその単元に必要な単語をフォニックスチャンツで導入

	<p>⇒段階的に「文字だけ」で読むことにチャレンジさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「模擬リーディング」をする。 <p>⇒単元末に、その単元で学習した表現や単語で構成された「リーディング教材」を読む。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを四線上にかくことができる。 ・聞いたことのある単語であればほぼ読める、推測しながら未知の単語を読むことができる。 ・eで終わる単語の読み方 (bike, tube など) ・フレームとして与えられたものに、単語を選んで文章を書くことができる。 (I like _____ ./ I play _____ など)

○指導方法の工夫

- ・児童の意欲を高めるために、他教科等との関連を図ったり、発達段階にあわせた身体全体を使ったリズム遊びの延長のチャンツ、ワークシートなどの開発を行っている。
- ・定着を図るためのスパイラルな指導過程の研究を進めている。(語彙シート、会話シートなどによる反復練習と定着)

◇強化地域内の中学校および高等学校との連携

- ・中学校での中1の授業を加配教員(小学校英語担当)が担当し、中学校教員と協力してT-Tを行っているので、小学校での指導と中学校での指導をうまく接続させることができた。小学校での指導を受けて、定着を確認しながら、中学校での「聞く→話す→書く」ことの活動につなげることができている。また、中学校での活動をイメージしながら小学校段階での指導を考えることができている。
- ・中学校、高等学校の授業を参観し、協議に参加することで「小学校から高等学校までの英語教育の全体像」が見え始めた。
- ・高等学校の先生が小学校の授業にT-Tで参加することで、小学生には「高等学校での英語の授業へのあこがれ」が生まれ、よい刺激になっている。また、高校生との交流にも挑戦させたいという思いも、小学校と高等学校の指導者の間で出始めている。

◇外国語担当教員の位置付け

- ・コア・ティーチャー育成プログラムでの研修や視察の内容を校内に伝達することで、新しい指導のアイデアを得て、より具体的なイメージをもってHRTが指導に当たることができている。
- ※先進校視察は3学期の予定である。

◇研究成果の発信・普及・検証

- ・「実践の経過報告」を「南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業に関わる実践交流会」(南国市の小中学校の全教員が参加)で発表する予定である。
- ※検証については、1月に実施する児童英語検定の結果等もふまえて、行う予定である。

香南中学校

◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。

小3～中3までの英語科としての「CAN-DO リスト形式の到達度目標」を作成し、4技能の到達目標の見直しを行い、年間計画の作成、評価の実施に生かしている。今後さらに、継続して見直していく。

◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。

年間計画を見直す際に、単元で付きたい力をもとに、単元ゴールとなる言語活動を設定し、その単元で学習した表現や既習の表現を活用できる場面を単元末に設けることにした。その単元ゴールに向けてスパイラルに学習や活動が積み上げられるように単元の構成を工夫している。

◆課題解決に向けて

小学校からのスムーズな接続の成果として、「聞く→話す」の技能には向上が見られたが「書く」ことに課題がある。そこで「聞く→話す→書く」「読む→話す→書く」の活動を帯学

習などとして取り入れ、高まった技能に付随させることによる技能の向上を目指している。

◇強化地域内の小学校および高等学校との連携

- ・ 中学 1 年生では、中学校での加配教員（小学校英語担当）との T-T により、小学校での指導が生かされ、無理なくスムーズに中学校での指導につながり、生徒の活動や意欲に結びついている。
- ・ 小学校の授業を参観、協議に参加することで、小学校でのきめ細かい指導や、生徒の実態を知り、中学校につながるイメージを持つことができ、中学校での活動や指導に生かすことができている。
- ・ 中学 3 年生では、高等学校教員との T-T による授業を行った。生徒たちが、程よい緊張感を持ちながら、高等学校での英語学習への興味・関心を持って取り組むことができた。また、その後の協議で、高等学校の実態や、授業について話す機会を持つことで中学校での活動を考えることができた。高等学校の授業でのディベートやディスカッションなどの活動にスムーズにつながるように、中学校では「自分の意見を話す、書く」活動に取り組んでいる。

◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム及び先進校視察

研修や先進校での視察の内容（小・中）を教員間で共有し合い、指導の振り返り、改善に役立てている。

◇研究成果の発信・普及・検証

「南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業に関わる実践交流会」で発表予定。
1 月実施予定の高知県学力定着状況調査、英検等の結果をもとに検証する予定である。

高知西高等学校

◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究

- ・ 小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。
初年度ということや学校の地理的な理由からも、小中高の一貫性のある学習到達目標の作成について、話し合いをもつことができなかった。来年度以降、研究授業等を活用して、異校種の学習到達目標について、理解する機会をもつことが必要である。
- また、高等学校ごとに生徒の学力差や特色があり、学習到達目標も異なるため、小・中学校から一貫性のある学習到達目標の基準を設定することは難しいが、中学校での学習目標及び学習内容を理解し、生かす授業を行うことが重要であり、今後、拠点校間の交流が求められる。

◆教科書の単元構想の研究

- ・ 学習到達目標に照らし合わせて、教科書の単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という 3 つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。
教科書の単元ごとに①②③の 3 つの観点から、学年担当者全員で指導案を練り、統一したワークシートを作成し、授業を行っているが、③の評価方法については、ペア活動などを通しての生徒同士の評価が多く、小学校のように毎授業後、振り返りシートで生徒自身の取り組みや理解について自己評価をできるようにするなどの工夫が必要である。

◇強化地域内の小中学校との連携

- ・ 小学校の授業参観・研究協議への参加（年間 2 回）
 - ・ 中学校の授業参観・研究協議への参加（年間 2 回）
 - ・ 高等学校で研究授業の実施（年間 1 回）
- 小・中学校の取り組みを知り、つながりを重視した高等学校での取り組みを考える良い機会となった。例えば、小学校では、帯活動として 10 分間程度フォニックスの指導を行っており、フォニックスが小・中学校と継続的に指導されることで、高等学校ではさらに発音指導を発展させることができ、また未知語に遭遇した場合への対応もスムーズに行える。

◇研究成果の発信・普及

・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

11月5日 5限 公開授業

6限 研究協議（授業の振り返り・質疑応答・拠点校授業担当者のコメント等）

普段の授業を小・中学校の先生方に見ていただき、異なる観点から意見を聞くことで、小中高連携について考える良い機会となった。この場で、小中高での一貫した学習到達目標について、CAN-DOリスト等を持ち寄って話し合いができれば良かった。

【課題】

1 教育目標について

日章小学校・大湊小学校

1・2・3年生で実施している外国語活動の目標は、現行の「小学校外国語活動の目標」に準じて設定し、指導内容を”Hi Friends”とほぼ同等のものとしたが、発達段階に合わないものがあり、再編成の必要があった。

4・5・6年生で実施している英語科の目標は、中学校の学習指導要領の目標を参考に「英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことを中心とするコミュニケーション能力の基礎を養う。」とし、中1レベルの話す・聞くを中心とした指導内容を設定したが、今年度からの取組のため必要な語彙が不足し、十分な表現活動ができない単元もあった。

低学年からの計画的な語彙指導の必要性を感じ、カリキュラムの見直しを図る予定である。

香南中学校

今年度は小3～中3までの英語科としてのCAN-DOリストの作成、年間指導計画の見直しを行っているが、今後小学校での英語教育が進むにつれて生徒の実態も変容していくことが予想されるため、小学校の活動をふまえた内容の充実を図っていかなければならない。

小学校の英語教育を踏まえ、高等学校の英語へ繋がるようなディベートやディスカッションなど、深まりのある活動には至っていないので、今年度をもとにステップアップを図ることが課題である。

2 指導方法について

日章小学校・大湊小学校

単元末の活動に向けて、スモールステップでスパイラルに活動を積み上げていく指導方法に取り組んでいるが、単元末のコミュニケーション活動をいかにコミュニケーションの必要性があり、オーセンティックな場面設定にするかが課題である。よりリアルな場面に近づけようとする、語彙と表現が増え、児童の負担が増す。児童の実態にあったものにしつつ、どのあたりで折り合いをつけるか本年度の実践を踏まえ、改善が必要である。

香南中学校

中学校1年生は小学校で使用してきたクラスルームイングリッシュを活かし、スムーズに授業が進められているが、授業者の指示に対する受け応えや反応だけでなく、学習者同士でも使えるように、さらに増やしていく必要がある。また、学習したことを定着させるためには、日常的な取組として、Talk and Report や会話シートを使った会話練習など継続して取り組んでいくことが、今後も必要である。家庭学習の指導も改善の余地がある。話すこと、聞くことは一定の成果を見せつつあるが、やはり書くことに課題がある。

高知西高等学校

小・中学校とのTT指導では、初年度ということもあり、児童生徒の実態がわからな状況があったり、十分な授業の打合せや準備が行えなかったりしたこともあり、次年度からは、高等学校教員の役割を明確にした授業づくりや十分な事前の打ち合わせ等の改善が必要となってくる。

(6) 評価計画

小学校	<p>【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 <p>【二年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【三年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【四年次】児童の変容から成果や課題を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、これまでの研究の成果と課題を考察する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果と課題を考察する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。
中学校	<p>【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 <p>【二年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【三年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【四年次】生徒の変容から成果や課題を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

【一年次】研究の方向性、計画などから評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【二年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【三年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【四年次】生徒の変容から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

平成26年度進捗状況・課題

日章小学校・大湊小学校

【進捗状況】

- ◆年に2回（6月、12月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し情意面について調査した。多くの学級で英語が好きな児童数の増加が見られた。また、児童英検を1月末に実施予定である。その結果をあわせて、情意面、英語の力について分析し、研究の成果・課題を把握し、研究の妥当性を検証する予定である。

アンケート項目は以下の通りである。

- (1) あなたは、英語の授業は好きですか。
- (2) あなたは、英語の授業に進んで参加していますか。
- (3) あなたは、「英語の授業」の内容をどれくらい理解していると思いますか。
- (4) 英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことですか。

ア 英語で歌を歌ったりチャンツを言ったりすること

イ 英語でゲームをすること

ウ 英語で友だちと会話をすること

エ 英語で学校の先生と会話をすること

オ 英語で外国人の先生と会話をすること

カ 外国のことについて学ぶこと

キ 日本語と英語の違いを知ること

ク 英語で自分のことや意見を発表すること

ケ 英語で友だちや先生、他の人の意見を聞くこと

コ 英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと

サ 英語の文字や単語を読むこと

シ 英語の文字や単語を書くこと

☆英語について質問します。

- (5) あなたは、英語は好きですか。
- (6) あなたは、英語が使えるようになりたいですか。
- (7) あなたは、英語は大切だと思いますか。また、なぜそう思いましたか。
- (8) もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたははどうすると思いますか。
- (9) あなたがこれから英語を使ってみたいことは何ですか。
- ア 外国の人と話すこと
- イ 外国の人と友だちになること
- ウ 外国の映画を字幕なしで見ること
- エ 英語で書かれた本を読むこと
- オ メールなどで、外国の人に英語で手紙を書くこと
- カ 英語の歌を聴いたり歌ったりすること
- キ 英語を使う仕事をする事
- ク 海外旅行へ行くこと
- ケ 英語で日本の文化を紹介(しょうかい)すること
- コ その他(英語でしてみたいこと)
- (10) 次のような場合あなたは どうしますか
- ①話していることがわからなかったり、聞こえなかったりしたら……
- ②英語を話すときどんなことに気をつけていますか
- (11) あなたがこれから英語でもっとできるようになりたいことは何ですか。
- ア 英語をもっと聞けるようになりたい。
- イ 英語でもっと話せるようになりたい。
- ウ 英語を読めるようになりたい。
- エ 英語を書けるようになりたい。
- (12) あなたは、日頃の英語授業の中で次のことができていますか。
- ア 英語を聞いて話している人の言いたいことがわかる。
- イ 自分のことなどを英語で話すことができる。
- ウ 英語の文字や単語を読むことができる。
- エ 英語の文字や単語を書くことができる。
- (13) あなたの考えに一番近いものをえらびなさい。
- ア あなたは、人(友だちなど)とコミュニケーションをとることが好きですか。
- イ 人前で(みんなの前で)発表するのが得意ですか。

香南中学校

【進捗状況】

◆年に2回(6月、12月)、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し情意面について調査した。意欲面での向上が見られた。また、英検を1月末に実施予定である。その結果をあわせて、情意面、英語の力について分析し、研究の成果・課題を把握し、研究の妥当性を検証する予定である。アンケート項目は以下の通りである。

- (1) 英語の授業は好きですか。
- (2) あなたは英語の授業に進んで参加していますか。
- (3) あなたは英語の授業の内容を理解していると思いますか。
- (4) あなたは英語の授業が次のことができると思いますか。
- ①日頃の友だち関係にかかわらず、自分から誰にでも英語で話しかけること。
- ②外国人の先生に、自分から英語で話しかけること。
- ③英語の先生に、自分から英語で話しかけること。
- ④自分の考えなどを英語で話すこと。
- (5) 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語授業で役に立ったことはありますか。
- (6) 次の項目について、小学校の英語の授業でもっと学習しておきたかったと思いますか。
- ア アルファベットを書くこと

- イ アルファベットを読むこと
 - ウ 英語で簡単な会話をすること
 - エ 英語でゲームをすること
 - オ 英語の歌を歌うこと
 - カ 英単語を読むこと
 - キ 英単語を書くこと
 - ク 英語の発音を練習すること
 - ケ 英語の文を読むこと
 - コ 英語の文を書くこと
 - サ 外国のことについて学ぶこと
 - シ 英語で自分のことや意見を言うこと
 - ス みんなの前で英語を発表すること
 - セ 友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと
 - ソ 日本語と英語の違いを知ること
- (7) あなた英語が好きですか。
- (8) あなたは、英語が使えるようになりたいですか。
- (9) あなたは、英語の勉強は大切だと思いますか。
- (10) もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたはもうどうすると思いますか。
- (11) あなたがこれから英語を使ってしてみたいことは何ですか。
- ア 外国の人と話すこと
 - イ 外国の人と友だちになること
 - ウ 外国の映画を字幕なしで見ること
 - エ 英語で書かれた本を読むこと
 - オ メールなどで、外国の人に英語で手紙を書くこと
 - カ 英語の歌を聴(き)いたり歌ったりすること
 - キ 英語を使う仕事をする
 - ク 海外旅行へ行くこと
 - ケ 英語で日本の文化を紹介(しょうかい)すること
 - コ その他(英語でしてみたいこと)

高知西高等学校

◆年に2回(4月、2月)、生徒・教員対象のアンケート調査結果から

- ・情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。

4月の1年生対象のアンケート調査結果では、生徒278名中、約76%の212名が「英語が好き」または「とても好き」と回答した。授業でも大きな声で音読活動を積極的に行うなど、モチベーションの高さが伺える。このモチベーションを保つために、多読活動や生徒たちの興味関心を引く話題に関する英作文課題など、抵抗なく楽しく読むことや書くことに取り組めるようにしている。2月のアンケートでは、そういった取り組みについて生徒の意見を聞き、今後の指導に活かしたい。

◆ベネッセ実施のスタディーサポート(4月、9月)の結果

- ・学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。

第1学年全体の4月の学力到達度はB3(S、A、B、C、Dの5段階で各段階に1～3の階層がある)であったが、9月にはB2と伸びを見せた。各項目では、4月には語彙・文法・文構成がC、読解がBであった。9月には語彙・文法・文構成がともに伸びを見せBに、読解については4月と変わらずBであった。定期的な単語テストや中学校からのつながりを考えた文法指導、また英作文課題やプレゼンテーションやディベート活動など、日頃の学習の成果が伺える。読解については、多読活動を継続することで今後の伸びが期待できる。

◆英語検定の取得率による生徒の英語力の定着状況

・外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

第1学年の第1回目における取得者数は2級1名、準2級20名、そして第2回は英検2級3名、準2級32名であった。第1学年の生徒は全員受験となっており、授業のスピーキングテストを英語検定の面接形式で実施したり、補習で英語検定対策をしたりすることで、英語検定受験に対して抵抗感をもつ生徒は少ない。次回第3回の英語検定では、多くの生徒が受験することになっており、現在多くの生徒が積極的に取り組んでいる。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要（平成26年度の進捗状況・課題）

○研究組織の概要

別紙1参照

(2) 運営指導委員会

活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

○活動計画

- ・運営指導委員は、研究校で開催される年間2回実施する運営指導委員会に出席する。
- ・運営指導委員会では、強化地域における取組や事業の方向性について指導・助言を行う。
- ・研究校における公開授業や研究協議会に適宜参加し、適切な指導・助言を行う。

○平成26年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

運営指導委員会2回実施（第1回平成26年7月2日、第2回平成27年2月16日予定）
 <第1回>

日時：平成26年7月2日（水）13：30～17：00

会場：南国市立日章小学校

内容：公開授業、県からの事業説明、公開授業についての研究協議、各校の取組報告及び協議、
 運営指導委員からの指導助言

運営指導委員からの指導助言内容：

①授業について

- ・カタカナ使用について、最近、それほど害はないが、英語があふれているから、わざわざ添える必要はない。
- ・安定した授業であるが、もっと子どもらしく授業してもいいのではないか。
- ・何度も聴かせる場面をもつ。

②事業について

- ・大きなビジョンを小中高で共有する。
- ・研究を進めていくうえで、具体的なデータを残す。（アンケート等）
- ・授業改善は、指定校でなくてもやること。子どものために、授業改善を行う。

③方向性について

- ・高校での出口をどうするのかを議論する。
- ・小学校では、理解可能な **input** を増やすこと。
- ・豊かなコミュニケーションを目指す。まとまりのある文章を書くことがゴールではない。伝えたい内容をまとまりのある文で書くことがゴール。

・中学校と高等学校の接続カリキュラムを大切に指導してほしい。文字と音の関係等。
 <第2回予定>
 日時：平成27年2月16日13：30～17：00
 会場：中土佐町立久礼小学校
 内容：公開授業、公開授業についての研究協議、各校の取組報告及び協議、運営指導委員からの指導助言

【課題】

- 小中高での教員の交流では、互いの授業を見合うことができたが、それぞれの取組から、自校の取組や研究を深めることができなかつた。授業参観から、情報交換、さらにカリキュラムの連携と踏み込んだ研究の連携をしていくことが必要である。
- 異校種間の連携や交流を深めるためには、事務局の場の設定が必要である。交流の場面設定を来年度は計画していきたい。

5. 年間事業経過

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	□標準学力調査（中学校） □学力定着把握検査及び生徒・教職員意識調査実施（高等学校） ・県教委指導主事による支援訪問	
5月	◆公開授業、研究協議、情報交換 ◆公開授業【香南中① 5/16（金）】 ・県教委指導主事による支援訪問	
6月	◆各拠点地域の担当者会【大湊小 6/12（木）】 ◆公開授業【大湊小① 6/20（金）】 （コア・ティーチャー育成事業第2回集合研修） □児童・教職員意識調査（小学校） □生徒・教職員意識調査実施（中学校） ・県教委指導主事による支援訪問 ◆高校英語担当とのT-T授業【香南中6/27（金）】	
7月	◇第1回県連絡協議会【日章小7/2（水）】 ◆公開授業、研究協議、情報交換（日章小①） ・県教委指導主事による支援訪問	第1回運営指導委員会 7/2（水）
8月	◆校内研修【大湊小8/1（金）】【日章小8/22（金）】 ◆拠点地域内の担当者会【大湊小8/11（月）】 ・指導主事による支援訪問	
9月	◆公開授業、研究協議、情報交換【大湊小②9/11（木）】 □学力定着把握検査（高等学校） ・県教委指導主事による支援訪問	
10月	◆高校英語担当とのT-T授業【大湊小10/9（木）】 ◆高校英語担当とのT-T授業【香南中10/15（水）】 ◆公開授業、研究協議、情報交換【香南中②10/17（金）】 ・英語検定（中学校第3学年） ・県教委指導主事による支援訪問	
11月	◆高等学校公開授業、研究協議、情報交換【西高校11/5（水）】 ◆高校英語担当とのT-T授業【日章小11/10（月）】	

	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議情報、情報交換【日章小②11 / 12 (水)】 ・県教委指導主事による支援訪問 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> □児童・教職員意識調査 (小学校) □生徒・教職員意識調査実施 (中学校) ◆拠点地域内の担当者会【香南中12 / 24 (水)】 ・県教委指導主事による支援訪問 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換【香南中③1 / 16 (金)】 ◆公開授業、研究協議、情報交換 (日章小③1 / 21 (水)) □高知県学力定着状況調査実施 ・県教委指導主事による支援訪問 ・児童英検 (小学校第5・6学年) ・英語検定 (中学校第1・2学年) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校英語担当とのT-T授業【大湊小2 / 5 (木)】 ◆高校英語担当とのT-T授業【日章小2 / 6 (金)】 ◇第2回県連絡協議会 (久礼小2 / 16 (月)) ◆公開授業、研究協議、情報交換【大湊小③2 / 20 (金)】 □生徒・教職員意識調査 (高等学校) ・県教委指導主事による支援訪問 	第2回運営指導委員会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による支援訪問 	
【その他の取組】※あれば記入		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	高知県教育委員会事務局小中学校課 担当 (谷口)
連絡先 (電話番号)	代表：088-821-4638 (内線) 3297 直通：同上
(電子メール)	E-mail：310301@ken.pref.kochi.lg.jp

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 高知県教育委員会

所 在 地 高知県高知市丸ノ内1丁目7-52

代 表 者 職 氏 名 高知県教育長 田村 壮児

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	こうちけんりつ こうちにし こうとうがっこう	ふりがな	まつぎ ゆうすけ
学校名	高知県立高知西高等学校	校長名	松木 優典
ふりがな	なかとさちょうりつ くれ ちゅうがっこう	ふりがな	おかむら みつゆき
学校名	中土佐町立久礼中学校	校長名	岡村 光幸
ふりがな	なかとさちょうりつ くれ しょうがっこう	ふりがな	あまの ひさし
学校名	中土佐町立久礼小学校	校長名	天野 比左志

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

国際化時代に必要なコミュニケーション能力を育成するため、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教科としての「外国語科」を新設した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校・高等学校との教育課程との円滑な接続の在り方についての研究開発

(2) 研究の概要

本強化地域における児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく参加でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、育ってきている。しかし、小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を中・高等学校において生かすことが十分ではなく、児童生徒の学びの連続性や円滑な接続した指導に課題があると考えます。

このことから、本強化地域においては、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教科としての「外国語科」を新設することで、学習内容の系統性、指導方法の継続性が生まれ、小中高の滑らかな接続と4技能の発達段階に応じた育成を図ることができると考える。

(3) 現状の分析と仮説等

<p>①現状の分析と研究の目的</p> <p>本小中学校区における児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく取り組み、積極的に友達ともコミュニケーションを図ろうとすることができる。しかし、小学校での学びや活動が中・高等学校の英語学習に効果的に接続し、英語の学力が向上しているとは言えない。また、英語を使うことを目的としたコミュニケーション能力の育成を目指した目標の一貫性に課題がある。</p> <p>このことから、小学校で外国語科を新設し、小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での発達段階に応じた「聞くこと」「話すこと」を重点に「読むこと」「書くこと」も含む4技能を育成する。</p> <p>②研究仮説</p> <p>小学校での外国語科を新設し、教育課程、評価規準等を児童の発達段階や中・高等学校の接続を見据えて作成し実践することで、小中高の英語教育の連続性のある学びが生まれ、児童生徒の英語を使ったコミュニケーション能力が向上するだろう。</p> <p>具体的には、①小学校「外国語科」のカリキュラムの作成（「読むこと」「書くこと」の導入時期と方法の研究を含む）、②児童の意欲を高める学習評価の在り方、③小中高をつなぐ系統的なカリキュラム作成、④中学校での指導内容の高度化等について、研究を深める。</p> <p>③研究成果の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中高の効果的な接続を図った教育課程の作成 ○児童生徒・教職員への意識調査（年2回） ○児童英検・標準学力調査、高知県学力定着状況調査及び英語検定の実施 <p><H29までに児童英検取得率80%（小学校）、英語検定 3級 取得率50%をめざす></p>

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第3・4学年 1コマ 第5・6学年 2コマ	第3学年 1コマ	第3学年 1コマ	第3学年 1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ

(5) 研究計画（平成26年度の進捗状況・課題）

○第一年次~第四年次、校種別	
小学校	<p>一年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第3・4学年 外国語活動 年間35時間<使用教材 “Hi, friends!1”及び自主教材> ○第5・6学年 外国語活動 年間70時間<使用教材 “Hi, friends!1、2”> ◆学校全体で取り組み、効果的な小中連携を図るための組織を構築する。 ◆外国語活動の指導の充実（時間増分）を図る。 <<例>>次年度に向けたコミュニケーション能力育成や学習評価の在り方の工夫を行う。 ◆教員の指導力向上のための校内研修の充実を図り、組織体制を構築する。 <<例>>教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。

	一年次	<p>◆「外国語科」の新設準備 ≪例≫「外国語科」における学習内容・評価・評定等の在り方の確認 教科カリキュラムの研究及び編成</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の推進リーダー研修参加と成果普及 ・県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講 <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
小学校	二年次	<p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間 <使用教材 “Hi, friends!1” 及び自主教材> ○第5・6学年 外国語科 年間70時間 <使用教材 “Hi, friends!2” 及び文部科学省H26年度配付予定の教材></p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆「外国語科」の新設 ≪例≫教科カリキュラムの運用・修正 ≪例≫児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方についての研究 振り返りシート作成、評価方法（評価テスト作成）、評価の仕方についての共有</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
	三年次	<p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間 <使用教材 “Hi, friends!1” 及び自主教材> ○第5・6学年 外国語科 年間70時間 <使用教材 “Hi, friends!2” 及び文部科学省H26年度配付予定の教材></p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」の指導の系統について研究する。 ≪例≫発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
	四年次	<p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間 <使用教材 “Hi, friends!1” 及び自主教材> ○第5・6学年 外国語科 年間70時間 <使用教材 “Hi, friends!2” 及び文部科学省H26年度配付予定の教材></p> <p>◆検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究成果と課題をまとめる。</p> <p>◆発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」の指導の系統について研究する。 ≪例≫発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◆第6学年の中学校への接続における効果的な指導について研究する。 ≪例≫円滑な接続プログラムの作成</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT ◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
中学校	一年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。 ◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。 ◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。 《例》場面設定や既習事項の復習を考えたゴールの工夫 ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	二年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6－中1の接続プログラムの作成を行う。 ◆授業での生徒・教員の英語使用量を上げるための研究を行う。 ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	三年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆高等学校との滑らかな接続を考慮したプログラムを作成する。 《例》授業を英語で行うことや、より実践的・オーセンティックな言語活動の導入。 ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間5回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	四年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究の成果と課題をまとめる。 ◆授業を英語で行う。 ◆小・中・高等学校との連続性・系統性をもったカリキュラムの作成 ◆高等学校との接続プログラムを運用する。（第3年次作成） ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間3回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会

高等学校	一年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。</p> <p>◆教科書の単元構想の研究 学習到達目標に照らし合わせて、教科書の各単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携 ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）</p> <p>◇研究成果の発信・普及 ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」</p>
	二年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携 ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）</p> <p>◇研究成果の発信・普及 ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」</p>
	三年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携 ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）</p> <p>◇研究成果の発信・普及 ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」</p>
	四年次	<p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <p>◇強化地域内の小中学校との連携 ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）</p> <p>◇研究成果の発信・普及 ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」</p>

○平成26年度の進捗状況・課題（●課題）

久礼小学校

第3・4学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞
 第5・6学年 外国語活動 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!1、2”＞

学 年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
実施時数2学期現在	29時間	26時間	53時間	53時間

◆学校全体で取り組み、効果的な小中連携を図るための組織を構築する。

【進捗状況・課題】

(1) 組織作り

*企画会→「管理職、研究主任、外国語担当」によって構成され、企画立案を行う。

・教科研究部→「管理職、研究主任、外国語担当、学年代表者」によって構成され、企画案を検討している。

- ・職員会 → 企画案の提案内容を話し合い、共通理解の後、具体的実践を行っている。
- 機能的に運営できているので現状のままで1年間継続していく。

(2) 小中連携

*担当者会→「小学校外国語担当、中学校英語担当」によって構成し、適宜、会を行っている。

- ① カリキュラム（つながりのある学習内容の確認）を作成試行し、修正。
- ② 「CAN-DO リスト」の作成（7年間つながる内容）
- ③ 交流授業の実施・・・小学校第6学年の中学校体験入学の際、中学校第3学年と英語の交流授業を実施
- ④ 授業参観の実施・・・4月に小学校全教員が中学校の授業を参観
- ⑤ 校内研修への参加
 - *小学校教員が中学校へ・・・1学期、2学期計2回。公開授業参観、その後の協議、講師の指導助言及び、講話に参加
 - *中学校教員が小学校へ・・・2学期1回。公開授業参観、その後の協議、講師の指導助言及び、講話に参加

○交流授業は前年度と比較して前進した。今後は、行事での実施からカリキュラムに位置付けた交流授業を行うことを研究する。

(3) イングリッシュルーム設置

目的：指導者、学習者ともに外国語学習のレディネスを高め学習効果を上げる。

掲示物、学習者の作品、教材の共有を図ることによって他学年の学習状況を把握し、外国語活動の実践内容を学校全体に広める。

○空き教室を活用し教職員で設置。設置後は全授業をイングリッシュルームで行っている。

●教材の更なる充実を図り、文字指導に伴った視覚教材の掲示物の工夫を行う。

◆外国語活動の指導の充実（時間増分）を図る。

【進捗状況・課題】

(1) 各学年の実施

〈第5・6学年〉・・・“Hi, friends1,2”を使用し、自主教材を補助的に活用しながら実施している。

○時間数が倍増したことに伴い各 Lesson を2倍の時数で扱う事を基本として、指導の充実を図っている。

○具体的な取組

- ① 取り扱う語句、表現に触れる時間を増やす。
- ② 取り扱う語句、表現の量を増やす。
- ③ 各 Lesson の「Activity」を充実させ交流の場面の質、量を高める。
- ④ 自主教材を追加し、場面設定の質、量を向上させる。
- ⑤ 文字学習の導入を試みる。
- ⑥ 帯活動を設定し、既習 Lesson の英語表現を生かして活動する場面を設定する。

〈第3・4学年〉・・・“Hi, friends1”の使用と自主教材の学習を併用しながら実施している。

○“Hi, friends1”の学習で必要となる語彙、表現を見通し、発達段階を考慮して実施している。

○具体的な取組

- ① 「友だちトーク」を設定し、「クリアボイス」「アイコンタクト」「リアクション」を意識したコミュニケーションの素地を養う場面を保障する。
- ② HRT が学級の現状を鑑み効果的な教材を作成する。
- ③ “Hi, friends1”で扱う表現を簡易にした内容を扱う。
- ④ 歌やチャンツ、ジェスチャー、ゲーム、絵本を使って、視覚、聴覚、触覚を使った活動を工夫して行う。
- ⑤ 学習形態を工夫し、協力型の活動を多く仕組む。

○文字指導を一部試行した。児童の学習歴を生かし、計画的に段階的に指導を行ってきた。

●今後は、帯活動として行うか、単元に特化して行うか今年度中にプランを立てる。

●総合的な学習に関連付けた身近な教材を開発し、学習内容を発展的に扱う場面を設置する。

◆教員の指導力向上のための校内研修の充実を図り、組織体制を構築する。

【進捗状況・課題】

(1) 教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立て、実施した。
(学習会) (1学期実施した外国語活動に関するアンケート結果に基づき、課題の多い項目について夏休みから2学期にかけて学習会を設定し実施した。)

- ・教育事務所指導主事を招聘しての学習
 - ①外国語活動の趣旨の再確認
 - ②外国語教育の今後の改革の具体の学習
 - ③外国語活動と外国語科の相違点についての共通理解
 - ④授業作り演習
(絵本を使った導入、慣れ親しみの具体的活動、グループ形態での具体的活動)

- ・加配教員を中心した学習
 - ①クラスルームイングリッシュ演習
 - ②先進校 DVD 視聴と解説
 - ③年間指導計画、単元表、指導案作成の視点の共通理解
 - ④授業スタンダードについて
 - ⑤小中連携の報告
 - ⑥研修報告
 - ⑦1学期各学年実践交流

- ・教員による先進校訪問の報告「香川県直島小学校、中学校」2名

(授業研)

- ・指導主事による指導助言 第6学年2回 第5学年(3学期予定)1回 第3学年1回
- ・外部講師による指導助言 関西大学初等部教諭 梅本先生 第5学年1回 第4学年1回

(公開授業)

- ・外部講師による指導助言 関西大学初等部教諭 梅本先生
11月7日(金) 町内小中学校教員 10名 町外 3名参加
学習者6年1組児童 指導者学級担任 ALT JTEによるTT形態
教材“Hi, friends2” Lesson7”Let’s go to Italy.”

事前研①全校体制で指導案検討②模擬授業

当日①公開授業②授業についての協議(グループに分かれて KJ 法による討議)

③討議内容の共有④講師による指導助言

⑤講師による講話「教科化を見すえ、文字指導を取り入れた授業づくり」

(授業作り)

- ・学習指導案は HRT、JTE が毎回協議しチームで作成
- ・教材準備、振り返りシート、単元表は協議後分担して作成
- ・授業中の役割分担のスタンダードの確認
 - ①HRT は授業の進行、個別支援を必要とする学習者支援、態度面の評価を行っている。
 - ②ALT は言語運用面の指導、評価を行っている。
 - ③JTE は総括的に指導している。

○計画通り実施できている。アンケートについては5月と同じ項目で1月に調査を実施し、検証する予定である。

○教員の授業力向上についての研修は、学習会、授業研、公開授業等、全校体制で取組み、共通の場で共通理解を行うことができている。

●教員の英語力向上についての全校体制での研修は、加配教員を中心とする「クラスルームイングリッシュ演習」のみである。今後は回数、内容、対象教員のグループ分け等の改善が課題として挙げられる。

◆「外国語科」の新設準備

【進捗状況・課題】

(1) 「外国語科」における学習内容・評価・評定等の在り方の確認し、昨年度までの年間指導計画、単元表を基本に、①削除するもの②改定するもの③追加するものを学年で検討した。

(学習内容)

- ・授業スタンダードの作成
- ・外国語活動の評価項目「慣れ親しみ」から外国語科の「聞く、話す、読む、書く」の4技能の定着に向けての効果的活動内容の研究開発①Today’s talk ②Today’s quiz ③Friends talk ④spell game ⑤辞書引き 等

〈評価〉

- ・振り返りシートに関して、①様式の改善 ②記入の仕方についての指導実施
- ・先進校視察
- ・講師による学習会
- ・文献研究

〈評定〉

- ・先進校視察
 - ・講師による学習会
- (2) 教科カリキュラムの研究及び編成
- (1) の項目を考察し、作成中である。
- 1, 2 学期の研究実践を本校の実態に見合った教科化に向けての集約とし、今年度中に項目を確定し、枠組みを整える予定である。

◇先進校視察

【進捗状況・課題】

- (1) 香川県直島町立直島小・中学校における視察
- 職員会で視察報告会を行い、実践に活用している。
 - ・教育環境整備（イングリッシュルームの活用）
 - ・授業づくり（文字指導の実践）

◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携

【進捗状況・課題】

- (1) 中学校での年間 3 回の授業参観計画のところ 2 回実施した。
- 4 月 1 1 日実施（小学校教員全員参加） 1 2 月 4 日（JTE 参加） 3 学期実施予定 1 回
- (2) 高等学校での年間 1 回の授業参観を行った。
- 高知西高等学校授業参観並びに連絡協議会参加（1 1 月 5 日実施）
 - ・内容：①授業参観第 1 学年、②グループに分かれ事後協議並びに情報交換、③協議内容の共有
- (3) 高等学校教員、中学校教員との TT を行った。
- 高知西高等学校教諭との TT 2 回
 - ・内容：授業事前打ち合わせ、TT 授業、事後協議、情報交換、意見交換
 - ① 1 0 月 1 4 日（火）第 3 学年 Lesson 「I like swimming.」
 - ② 1 2 月 2 日（火）第 6 学年 1 組 2 組 “Hi, friends2” Lesson7 「What time do you get up?」
 - 久礼中学校教諭との TT 1 回
 - ・内容：授業事前打ち合わせ、TT 授業、事後協議、情報交換、意見交換
 - ① 1 0 月 2 3 日（木）第 3 学年 Lesson 「I like swimming.」
 - 小中高連携は、TT による授業実践や情報交換等で急速に進んでいる。
 - 中高との連携（TT による授業実践、参観授業や情報交換）より得たことを、校内で伝達したり授業に反映させたりすることによって、共通理解を図る。

◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）

【進捗状況・課題】

- (1) 国の推進リーダー研修参加と成果普及（未実施）
- (2) 県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講
- ① コア・ティーチャー集合研修（5 回）
 - 内容：講演、演習、実践発表、実践交流、研究協議等
 - ② 実践向上研修（香川県直島小学校）10 月 20 日 21 日
 - ③ 拠点校研修（須崎小学校）6 月 10 日 10 月 10 日
 - 内容：授業参観、TT による授業参加、受け入れ校の校内研修への参加
 - 他県での授業参観や先進的な取り組みの視察によって、自身の授業改善やリーダーとしての資質向上を目指す良い機会となった。
 - 経験したことを授業実践、年間指導計画作成に生かし反映させる。また、先進的取組を普及させるために、校内研や町内外国語教育担当者会で報告する。

◇研究成果の発信・普及・検証

- (1) 県事業における年間 3 回の公開授業及び県連絡協議会
- 本校（2 月 1 6 日（月）実施予定）

- 研究内容を公開授業の形で発信し、授業後の協議を通して普及を目指した。
- 地区内の学校に校内研修会を公開することによって、研究の進捗内容を発信し、普及に努めた。
- 今後学校ホームページ等で発信、普及に努める。

久礼中学校

【進捗状況】

◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。

- ・久礼小学校外国語担当者と久礼中学校英語担当者での9年間を見通したカリキュラムについて話し合い（8月5日）
- ・久礼小学校第6学年の体験入学での英語体験授業（小6と中3の交流）の計画（12月4日）および運営（12月16日）

◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。

- ・中土佐町英語教科ネットワークにて見直しと改訂
（参加者：会員・久礼小学校外国語担当者・高知県中部教育事務所指導主事）（8月8日）

◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。

学年	単元	単元の目標	変更後
1	Unit 4	what を用いて質問文を書くことができる。	what を用いて質問することができる。
3	Unit 5	決められたテーマについて賛成・反対などの立場を明らかにし、理由を述べながら、まとまりのあるスピーチを行う。	決められたテーマについて賛成・反対などの立場を明らかにし、理由を述べながら、ミニ・ディベートを行う。

◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携

- 小学校での年間3回の授業参観及びTT
 - ・久礼小学校における公開授業（11月7日）
公開授業 学級：6年1組 単元：“Hi, friends! 2” Lesson 5 「Let's go to Italy.」
講演会 講師：関西大学初等部 梅本龍多先生
- 高等学校での年間1回の授業参観
 - ・公開授業及び授業研究協議会（高知県立高知西高等学校）（11月5日）
 - ・公開授業 学級：普通科 1年1・2組（3クラスに分割）
単元1：プロジェクト活動「Debate 2」
単元2：コミュニケーション英語 I
- 高知県立高知西高等学校との授業交流
 - ・久礼中学校での高等学校の先生とのチームティーチング
第1回目（11月5日）対象：3年A組 単元：Unit 4 Learn by Losing part 3
第2回目（12月2日）対象：3年B組 単元：Unit 6 Break the Barrier part 1

◇先進校視察

- 香川県直島町立直島小・中学校（9月17日）
小学校・中学校より取組説明及び質疑応答
公開授業参観（小学校第6学年・中学校第2学年）及び研究協議参加（小学校第6学年の授業について）

◇研究成果の発信・普及・検証

- 県事業における公開授業及び県連絡協議会
第1回英語教育強化地域拠点事業連絡協議会（南国市日章小学校：7月2日）
- 公開授業参観及び研究協議参加（小学校6年生の授業について）
久礼中学校における公開授業
第1回目・・・対象：1年A班 単元：Unit 1（4月30日）
第2回目・・・対象：3年A組 単元：Unit 5 Electronic Dictionaries – For or Against
講師：中嶋洋一 教授（関西外国語大学）
演題：「CAN-DO リスト形式の学習到達目標を生かした授業作り」（11月14日）

第3回目・・・対象：1年B班 単元：Unit 10 観光地から
 講師：中嶋洋一 教授（関西外国語大学）
 演題：「小学校教科化を見据えた英語教育」（1月29日）

【課題】

- 直島小・中学校のカリキュラムを参考に、小中9年間を通したカリキュラム作りについて小学校外国語担当者と話し合い、制作すること。
- 地域内の小学校との授業交流の回数を増やすこと。
- 高等学校での学習につながる授業展開を行うこと。
- 研修会や先進校視察で学んだことを勤務校での授業づくりに生かすこと。
- CAN-DO リスト形式の学習到達目標に基づいて、中学校卒業時の目指す生徒像を具体的な4技能の目標値をもつこと。

高知西高等学校

◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究

・小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。
 初年度ということや学校の地理的な理由からも、小中高の一貫性のある学習到達目標の作成について、話し合いをもつことができなかった。来年度以降、研究授業等を活用して、異校種の学習到達目標について、理解する機会をもつことが必要である。
 また、高等学校ごとに生徒の学力差や特色があり、学習到達目標も異なるため、小・中学校から一貫性のある学習到達目標の基準を設定することは難しいが、中学校での学習目標及び学習内容を理解し、生かす授業を行うことが重要であり、今後、拠点校間の交流が求められる。

◆教科書の単元構想の研究

・学習到達目標に照らし合わせて、教科書の単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。
 教科書の単元ごとに①②③の3つの観点から、学年担当者全員で指導案を練り、統一したワークシートを作成し、授業を行っているが、③の評価方法については、ペア活動などを通しての生徒同士の評価が多く、小学校のように毎授業後、振り返りシートで生徒自身の取り組みや理解について自己評価をできるようにするなどの工夫が必要である。

◇強化地域内の小中学校との連携

・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
 ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
 ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）
 小・中学校の取り組みを知り、つながりを重視した高等学校での取り組みを考える良い機会となった。例えば、小学校では、帯活動として10分間程度フォニックスの指導を行っており、フォニックスが小・中学校と継続的に指導されることで、高等学校ではさらに発音指導を発展させることができ、また未知語に遭遇した場合への対応もスムーズに行える。
 しかし、小・中学校とのTT指導では、初年度ということもあり、児童生徒の実態がわからない状況があったり、十分な授業の打合せや準備が行えなかったりしたこともあり、次年度からは、高等学校教員の役割を明確にした授業づくりや十分な事前の打ち合わせ等の改善が必要となってくる。

◇研究成果の発信・普及

・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
 1月5日 5限 公開授業
 6限 研究協議（授業の振り返り・質疑応答・拠点校授業担当者のコメント等）
 普段の授業を小・中学校の先生方に見ていただき、異なる観点から意見を聞くことで、小中高連携について考える良い機会となった。この場で、小中高で一貫した学習到達目標について、CAN-DO リスト等を持ち寄って話し合いができれば良かった。

(6) 評価計画（平成26年度の進捗状況・課題）

小学校	<p>【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 <p>【二年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【三年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【四年次】児童の変容から成果や課題を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、これまでの研究の成果と課題を考察する。 ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果と課題を考察する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。
中学校	<p>【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 <p>【二年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【三年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【四年次】生徒の変容から成果や課題を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

【一年次】研究の方向性、計画などから評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【二年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【三年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【四年次】生徒の変容から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

○平成26年度の進捗状況・課題

久礼小学校

(1) 研究の方向性、計画などから評価を行う。

- ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。

【進捗状況・課題】5月実施した外国語に関するアンケート結果は以下のとおりである。

〈教職員〉

1. 外国語活動を進めるうえで、次の項目は十分満たされているか。	肯定的評価
①外国語活動の在り方についての理解	86%
②学校全体での組織的な取組・教員の協力体制	100%
③授業研究などの校内研修の在り方	100%
④年間指導計画の作成	100%
⑤指導案の作成や授業展開の仕方	93%
⑥指導者の会話力や語彙力など	57%
⑦学習評価についての理解	71%
⑧授業で使うカードなど、教材、教具の準備	86%
⑨パソコンや電子黒板など、機器の活用	93%
⑩「Hi, friends!」の活用	93%
⑪ALTとの打ち合わせ	100%
⑫授業中のALTとのコミュニケーション	100%
⑬保護者への周知、外国語活動に対する保護者の理解	36%
⑭小学校間の連携	29%
⑮小学校と中学校の連携	79%
⑯小中の系統的なカリキュラムの作成	43%

2 外国語活動に対する意識	肯定的評価
①おおよそのイメージはつかんでいる	81%
②児童と一緒に楽しんでいる	88%
③自信をもって指導している	29%
④準備などに負担感がある	80%
⑤英語が苦手である	75%
3. 外国語を使うことで児童に変容が見られますか。	肯定的評価 85%
4. 外国語活動を行うことで、具体的にどのような変容が見られますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと積極的に関わろうとする姿が見られ始めた児童がいる。 ・日常の中で英語が出るようになった。 ・他教科より積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られる。 ・自分から積極的に交流しようという姿が見られるようになった。 ・英語を使うことを楽しみにしている。 ・日常生活での英語使用。 	
5. 今後、校内研修で取り上げたい内容はどんなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・他校の取組 ・英語嫌いにならない方法 ・評価について ・最終タスクの活動の紹介 ・Classroom English, Chant, Game などの効果的な活用例など、日々活用できそうなものの研修 ・教室に掲示しておけばよい英語や Classroom English ・授業で使えるゲームを使つての模擬授業・指導事例、教材の研修 	

〈アンケートの分析 教職員に関して〉

○肯定的な項目は「協力体制」、「校内研究のあり方」、「年間指導計画」、「ALT との TT」である。これは、昨年度まで構築されてきた研究体制が成果を上げているためと思われる。昨年度までに、年間指導計画に基づいた単元表に至るまで各学年作成されている。その中で、第5・6学年については、授業時数2倍という新たな教育課程実施に及んだ今年度でも、昨年度の単元表を参考にすれば授業づくりの具体的なイメージをある程度引き継ぐことが可能である。加えて、教材管理も行き届き、指導の積み上げを共有できるようになっている。その結果、今年度は昨年までに加えて、どの部分を維持し、どの部分を補充、追加すればよいかに焦点化して研究していけばよいかということになる。

○第3・4学年については、昨年度は年間5時間だった授業時数を35時間おこなうことになっている。外国語に触れる程度の扱いから“Hi, friends!”学習を視野に入れて、どのような言語材料を導入しておけば無理なく第5・6学年につながるかを、指導者が理解して授業づくりを行う必要がある。そのため、年度当初から外国語活動の今後の動向、先進的な教育実践の紹介を全校研修に位置付けて行った。また、JTE が全学年に参加し、学習指導案作成、教材準備、授業後の振り返り点検を行っている。その際、ALT との連携、他学年の実践紹介を心掛け、指導者の不安感を減らし、指導者が自信をもって授業を行うようにしている。

●今年度課題となる項目は、「指導者の英語力」「学校間の連携」「学習評価」の3項目である。

「指導者の英語力」に関して

全校研の中でクラスルームイングリッシュの学習会を、英語を聞き慣れたり、話慣れたりできるようにした。

「学校間の連携」に関して

- ・小小連携・・・2学期、他の小学校の外国語活動の公開授業に参加することができた。さらに連携を図るために、町内で組織される「外国語教育担当者会」の伝達をより具体的に行い課題の解消を図りたい。また、全校研で町内の小中学校の年間指導計画を取り上げ、自校の実践を多面的に考察する機会を設けていく。
- ・小中の系統的カリキュラム作成・・・小学校と中学校のつながりを明確にした「CAN-DO リスト」「単元表」の作成を行い、公開し、それに基づき実践を行う必要がある。

「学習評価」に関して

指導主事を招聘して学習会を行った際、講話していただいた。さらに先進校視察の際に説明していただき活用することになっている。

〈児童〉

肯定的回答

1 外国語の授業は好きですか。	96%
2 授業に進んで参加していますか。	89%
3 内容をどれくらい理解していますか。	89%
4 授業の中で楽しいと思うことはどんなことですか。	
①英語でゲームすること	98%
②英語で友だちと会話すること	94%
③英語で学校の先生と会話すること	89%
④英語で外国の先生と会話すること	87%
⑤外国のことについて学ぶこと	91%
⑥英語で歌を歌ったりチャンツを言ったりすること	86%
⑦日本語と外国語の違いを知ること	91%
⑧英語で自分のことや意見を発表すること	81%
⑨英語で友だちや先生、他の人の意見を聞くこと	89%
⑩英語で絵本を読んでもらうのを聞くこと	73%
⑪あなたは英語が好きですか。	94%
⑫あなたは英語を使えるようになりたいですか。	98%
⑬あなたは英語は大切だと思いますか。	96%

〈アンケートの分析 児童に関して〉

- 肯定的回答 90%前後の項目がほとんどであり、過去の実践の成果が出ている。
 - 4の⑩「英語で絵本を読んでもらうのを聞くこと」が73%とその他の項目と比較するとやや低い数値となっている。
 - 5の③「外国の映画を字幕なしで見る。」④「英語で書かれた本を読む。」⑤「電子メールなどで外国の人に英語で手紙を書く。」⑦「英語を使う仕事をする。」⑨「英語で日本の文化を紹介すること。」の肯定的回答率がやや低い数値になっている。
 - 4の⑩に関しては、低中学年を中心に授業に絵本を取り入れているためであると思われる。高学年向けの絵本を授業に活用するための研究が必要である。
 - 5の③「外国の映画を字幕なしで見る。」④「英語で書かれた本を読む。」⑤「電子メールなどで外国の人に英語で手紙を書く。」⑦「英語を使う仕事をする。」⑨「英語で日本の文化を紹介すること。」の肯定的に関しては、授業時数が増えたこと、中学校、高等学校の先生とのTT授業、中学生との交流授業等の今年度新たに体験したことが1月の数値に影響するか検証していかねばならない。
 - 1回目のアンケート結果を受けて2学期まで研究を行ってきた。2回目のアンケートの結果を受けて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・小学校第5・6学年を対象に児童英検を実施（12月）
12月に実施したため結果通知送付1月につき研究の成果を分析後検証する予定。

久礼中学校

・生徒を対象にした意識調査（7月と12月に実施）

一学期 英語

	十分すぎる	大分すぎる	まあまあ刚刚好	全く足りない
授業の内容が理解できたか				
1A	4	3	2	1
2A	18	14	1	0
2B				
3A	17	1	0	0
3B	19	1	0	1
先生の話し方や質問、説明はよく分かりましたか				
1A	4	3	2	1
2A	21	9	3	0
2B				
3A	16	2	0	0
3B	19	2	0	0
考える時間やノートをとる時間は十分ありましたか				
1A	4	3	2	1
2A	19	13	1	0
2B				
3A	18	0	0	0
3B	20	1	0	0
黒板やパソコンの使い方は分かりやすかったですか				
1A	4	3	2	1
2A	21	9	2	1
2B				
3A	18	0	0	0
3B	20	1	0	0

授業について思ったこと

《1年生》○説明がわかりやすく、授業の内容が頭に入った。
○楽しく授業ができた。
○be動詞を上手に教えてくれた。
○考える時間があった。
○パソコンを使ってる授業が分かりやすかった。
○わかりにくいところも、久礼ノートで復習できた。
●授業は楽しいが、自分の英語力が心配。
●問題を解く時間がもっとほしい。
●早く進みすぎて、わからないところがあった。
●be動詞と一般動詞をわかりやすく教えてほしい。
●英語で授業を進めるので、わかりにくいときがあった。
●英語を書く練習をもっとしたい。
●騒がしいので、もっといい環境で学習したい。
●先生の質問がわかりにくい時があった。

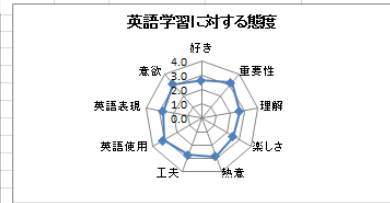
《2年生》
《3年生》○黒板の使い方や、教え方がわかりやすかった。
○テストの点が上がった。
○授業の最初のペア活動が良い。
●英語は難しい。
●2年生みたいに、歌を聞きながら授業を受けたい。
●周りがうるさくて、集中できないときがあった。

中学校第1学年

3 学習アンケート結果

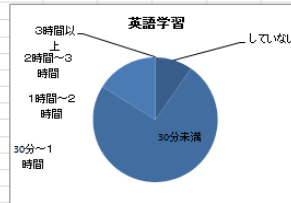
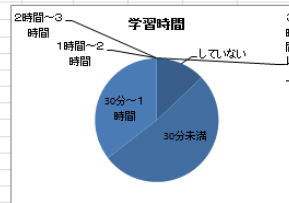
(1) 英語授業に対する態度

設 問	4	3	2	1
	とても思う	思う	まあまあ思う	思わない
(1) 英語の勉強は好きですか。	12.9%	54.8%	16.1%	16.1%
(2) 英語の勉強は大切だと思いますか。	51.6%	29.0%	12.9%	6.5%
(3) 英語の授業の内容はよく分かりますか。	16.1%	48.4%	25.8%	9.7%
(4) 英語の授業は楽しいと思いますか。	12.9%	45.2%	25.8%	16.1%
(5) 英語の授業に対する先生の熱意を感じますか。	22.6%	45.2%	25.8%	6.5%
(6) 英語の授業はよく工夫されていると思いますか。	12.9%	54.8%	22.6%	9.7%
(7) 英語の授業で、英語を使う機会が多いと思いますか。	35.5%	45.2%	12.9%	6.5%
(8) 英語の授業で、英語で自分のことを表現する機会が多いと思いますか。	16.1%	48.4%	29.0%	6.5%
(9) 英語の問題や課題に取り組むとき、あきらめずに最後までやろうと思いますか。	38.7%	38.7%	19.4%	3.2%



(2) 家庭学習時間

	学習時間	英語学習
平均学習時間(分)	21.7	15.4
学習時間	していない	12.9%
30分未満	51.6%	74.2%
30分~1時間	35.5%	16.1%
1時間~2時間	0.0%	0.0%
2時間~3時間	0.0%	0.0%
3時間以上	0.0%	0.0%



中学校第2学年

3 学習アンケート結果

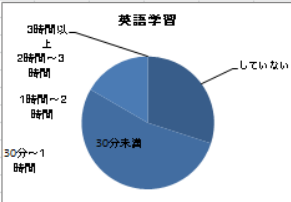
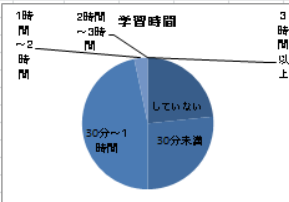
(1) 英語授業に対する態度

設 問	4	3	2	1
	とても思う	思う	まあまあ思う	思わない
(1) 英語の勉強は好きですか。	43.3%	23.3%	16.7%	16.7%
(2) 英語の勉強は大切だと思いますか。	60.0%	26.7%	13.3%	0.0%
(3) 英語の授業の内容はよく分かりますか。	40.0%	36.7%	6.7%	16.7%
(4) 英語の授業は楽しいと思いますか。	63.3%	26.7%	10.0%	0.0%
(5) 英語の授業に対する先生の熱意を感じますか。	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
(6) 英語の授業はよく工夫されていると思いますか。	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%
(7) 英語の授業で、英語を使う機会が多いと思いますか。	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%
(8) 英語の授業で、英語で自分のことを表現する機会が多いと思いますか。	66.7%	30.0%	0.0%	3.3%
(9) 英語の問題や課題に取り組むとき、あきらめずに最後までやろうと思いますか。	46.7%	33.3%	10.0%	10.0%



(2) 家庭学習時間

	学習時間	英語学習
平均学習時間(分)	26.0	11.2
学習時間	していない	23.3%
30分未満	26.7%	53.3%
30分~1時間	46.7%	16.7%
1時間~2時間	3.3%	0.0%
2時間~3時間	0.0%	0.0%
3時間以上	0.0%	0.0%

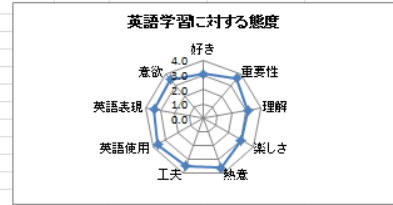


中学校第3学年

3 学習アンケート結果

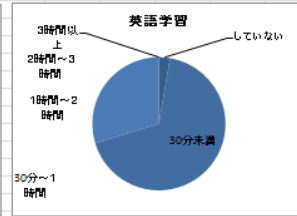
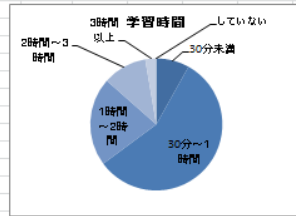
(1) 英語授業に対する態度

設問	4	3	2	1
	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
(1) 英語の勉強は好きですか。	33.3%	41.7%	22.2%	2.8%
(2) 英語の勉強は大切だと思いますか。	67.6%	27.0%	5.4%	0.0%
(3) 英語の授業の内容はよく分かりますか。	35.1%	43.2%	21.6%	0.0%
(4) 英語の授業は楽しいと思いませんか。	30.6%	44.4%	19.4%	5.6%
(5) 英語の授業に対する先生の熱意を感じますか。	62.2%	37.8%	0.0%	0.0%
(6) 英語の授業はよく工夫されていると思いませんか。	51.4%	48.6%	0.0%	0.0%
(7) 英語の授業で、英語を使う機会が多いと思いませんか。	64.8%	29.7%	5.4%	0.0%
(8) 英語の授業で、英語で自分のことを表現する機会が多いと思いませんか。	51.4%	43.2%	5.4%	0.0%
(9) 英語の問題や課題に取り組むとき、あきらめずに最後までやろうと思いませんか。	56.8%	37.8%	5.4%	0.0%



(2) 家庭学習時間

平均学習時間(分)	学習時間	英語学習
80.1		20.8
していない	0.0%	2.7%
30分未満	8.1%	67.6%
30分~1時間	56.2%	29.7%
1時間~2時間	21.6%	0.0%
2時間~3時間	10.8%	0.0%
3時間以上	2.7%	0.0%



〈教職員〉

観点		7月	12月
◎たいへんよい ○よい △課題あり			
1	学習指導要領を理解している。	○	◎
2	新しい学習評価について理解している。	○	◎
3	学年目標を定めている。	○	◎
4	4技能を総合的に育成できるような3年間を見通した全体計画を立てている。	○	○
5	教科書分析を通して単元でつきたい力を明確にし、評価計画を立てている。	○	○
6	外国語活動の内容や指導法を踏まえ、小学校での体験が生きるような指導計画を立てている。	○	○
7	単元でつきたい力を明確にし、ゴールとなる言語活動を工夫している。	○	◎
8	単元の目標を達成するために、つながりのある単元計画(評価計画)を工夫している。	○	○
9	本時の目標を具体的に示し、生徒が見通しをもって学習し、達成感を味わえるような工夫をしている。	○	○
10	生徒が英語を使う(聞く・話す・読む・書く)活動を中心にすえている。	○	○
11	教師の英語使用料を増やしている。	○	○
12	言語材料についての知識や理解を深める言語活動と考えや気持ちなどを伝え合う言語活動をバランスよく位置づけている。	○	○
13	生徒が考えたいくなる発問や言いたいくなる、聞きたいくなる活動を仕組んでいる。	△	○
14	既習の内容を繰り返して指導し、定着を図るよう工夫している。	○	○
15	生徒一人一人の定着状況を把握し、個に応じた支援や指導を工夫している。	△	○
16	評価規準をもとに終末の評価を行い、生徒が達成感を味わうことができるよう工夫している。	○	○
17	次時の内容や家庭学習について具体的に示している。	○	○
18	授業や家庭学習について、学習の仕方を具体的に示し、生徒自らが主体的に学習できるよう工夫している。	△	○
19	授業と関連付けた家庭学習を工夫するなど、家庭学習への動機づけを図るよう工夫している。	○	○
20	家庭学習の定着状況の把握や個に応じた評価や支援を工夫している。	△	○

課題

- 情意面では2回のアンケートの内容項目をそろえ、比較しやすくすることが課題である。また第1学年では、「英語学習が好き」、「英語学習が楽しい」に対する肯定的評価に落ち込みがある。「英語が好き」については肯定的評価目標値75%に対して、達成しているのは第3学

年のみで、第1学年67.7%、第2学年66.6%となっており、教材や単元ゴール、授業の中での評価について一層の工夫が求められている。中土佐町に住んでいる中学生にとって、外国の人々と交流し、英語を使う機会はALTとの会話を除いては非常に限られている。英語学習への意欲を高めるために、第2学年での関西方面への修学旅行で、外国の人々にインタビューする活動は続けていきたい。

- 教職員を対象にしたアンケートでは、学習指導要領に関する理解や単元ゴールの工夫について、改善している面も見られるが、家庭学習については取り組む時間が少ない学年がある。生徒が主体的に取り組むための手立てを考えていく必要がある。
- 学力面では、各調査とも「書くこと」が他の技能と比較すると低い傾向にある。しかし、標準学力調査では、3年生の「書くこと」の正答率が5.3%改善している。従って、授業における英語の使用量を増やすために、言語活動の時間を確保し、「話すこと」から「書くこと」につなげるという研究の方向性は妥当であると考えられる。単元ゴールが「書くこと」である場合、自分の身の回りのことや、自分の住んでいる地域について英文を書くことで、「書くこと」への意欲を高めさせたい。単元ゴールが「書くこと」以外の場合でも、単元ゴールに関する英文を書く練習をして、定期テスト等でまとまった英文を書くことに慣れさせる必要がある。ALTとのTTでは、ALTによるSmall Talkを聞いて英文を書くことで、他技能との統合を図りたい。

高知西高等学校

◇年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査結果から

- ・情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。

4月の1年生対象のアンケート調査結果では、生徒278名中、約76%の212名が「英語が好き」または「とても好き」と回答した。授業でも大きな声で音読活動を積極的に行うなど、モチベーションの高さが伺える。このモチベーションを保つために、多読活動や生徒たちの興味関心を引く話題に関する英作文課題など、抵抗なく楽しく読むことや書くことに取り組めるようにしている。2月のアンケートでは、そういった取り組みについて生徒の意見を聞き、今後の指導に活かしたい。

◇ベネッセ実施のスタディーサポート（4月、9月）の結果

- ・学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。

第1学年全体の4月の学力到達度はB3（S、A、B、C、Dの5段階で各段階に1～3の階層がある）であったが、9月にはB2と伸びを見せた。各項目では、4月には語彙・文法・文構成がC、読解がBであった。9月には語彙・文法・文構成がともに伸びを見せBに、読解については4月と変わらずBであった。定期的な単語テストや中学校からのつながりを考えた文法指導、また英作文課題やプレゼンテーションやディベート活動など、日頃の学習の成果が伺える。読解については、多読活動を継続することで今後の伸びが期待できる。

◇英語検定の取得率による生徒の英語力の定着状況

- ・外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

第1学年の第1回目における取得者数は2級1名、準2級20名、そして第2回は英検2級3名、準2級32名であった。第1学年の生徒は全員受験となっており、授業のスピーキングテストを英語検定の面接形式で実施したり、補習で英語検定対策をしたりすることで、英語検定受験に対して抵抗感をもつ生徒は少ない。次回第3回の英語検定では、多くの生徒が受験することになっており、現在多くの生徒が積極的に取り組んでいる。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要（平成26年度の進捗状況・課題）

○研究組織の概要

別紙1参照

(2) 運営指導委員会

活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

○活動計画

- ・運営指導委員は、研究校で開催される年間2回実施する運営指導委員会に出席する。
- ・運営指導委員会では、強化地域における取組や事業の方向性について指導・助言を行う。
- ・研究校における公開授業や研究協議会に適宜参加し、適切な指導・助言を行う。

○平成26年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

運営指導委員会2回実施（第1回平成26年7月2日、第2回平成27年2月16日予定）

<第1回>

日時：平成26年7月2日（水）13：30～17：00

会場：南国市立日章小学校

内容：公開授業、県からの事業説明、公開授業についての研究協議、各校の取組報告及び協議、運営指導委員からの指導助言

運営指導委員からの指導助言内容：

①授業について

- ・カタカナ使用について、最近では、それほど害はないが、英語があふれているから、わざわざ添える必要はない。
- ・安定した授業であるが、もっと子どもらしく授業してもいいのではないか。
- ・何度も聴かせる場面をもつ。

②事業について

- ・大きなビジョンを小中高で共有する。
- ・研究を進めていくうえで、具体的なデータを残す。（アンケート等）
- ・授業改善は、指定校でなくてもやること。子どものために、授業改善を行う。

③方向性について

- ・高校での出口をどうするのかを議論する。
- ・小学校では、理解可能なinputを増やすこと。
- ・豊かなコミュニケーションを目指す。まとまりのある文章を書くことがゴールではない。伝えたい内容をまとまりのある文で書くことがゴール。
- ・中学校と高等学校の接続カリキュラムを大切に指導してほしい。文字と音の関係等。

<第2回予定>

日時：平成27年2月16日13：30～17：00

会場：中土佐町立久礼小学校

内容：公開授業、公開授業についての研究協議、各校の取組報告及び協議、運営指導委員からの指導助言

【課題】

- 小中高での教員の交流では、互いの授業を見合うことができたが、それぞれの取組から、自校の取組や研究を深めることができなかった。授業参観から、情報交換、さらにカリキュラムの連携と踏み込んだ研究の連携をしていくことが必要である。
- 異校種間の連携や交流を深めるためには、事務局の場の設定が必要である。交流の場面設定を来年度は計画していきたい。

5. 年間事業経過

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼中①：4月30日） □標準学力調査（久礼中：4月22日） □学力定着把握検査及び生徒・教職員意識調査実施（高知西高校） ・県教委指導主事による支援訪問 （久礼小：4月23日，久礼中：4月24日） 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> □児童・教職員意識調査（久礼小：5月28日） ・県教委指導主事による支援訪問 （久礼小：5月20日 久礼中：5月28日） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼小①：6月17日） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼中：6月11日） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◇第1回県連絡協議会（日章小） □生徒・教職員意識調査実施（久礼中：7月7～8日） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼中：7月9日） 	第1回運営指導委員会 （南国市：7月2日）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ◆各拠点地域内の担当者会（8月5日） ・指導主事による支援訪問（久礼小：8月1日 久礼中：8月8日） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> □学力定着把握検査（高知西高校） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼中：9月26日） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼小②：10月28日） ・県教委指導主事による支援訪問 （久礼小：10月23日，28日，31日・久礼中：10月23日） ・高知西高等学校交流授業（久礼小・久礼中 10月14日） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼中②：11月14日・講師招聘） ◆高等学校公開授業・研究協議・情報交換（高知西高等学校：11月5日） ・県教委指導主事による支援訪問 （久礼小：11月11日，18日 久礼中：11月5日・11月20日） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> □生徒・教職員意識調査実施（久礼中：12月15日） □児童英検（久礼小：12月5日） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小・久礼中：12月2日） ・高知西高等学校交流授業（久礼小・久礼中 12月2日） 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼中③：1月29日） □高知県学力定着状況調査実施（久礼中：1月9日） □児童・教職員意識調査（久礼小） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小：1月19日 久礼中：1月29日） 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ◇第2回県連絡協議会（久礼小） ◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼小③） □生徒・教職員意識調査（高知西高校） ・県教委指導主事による支援訪問 	第2回運営指導委員会 （中土佐町：2月16日）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委指導主事による支援訪問 	
【その他の取組】 ※あれば記入		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	高知県教育委員会事務局小中学校課 担当（ 谷口 ）
連絡先（電話番号） （電子メール）	代表：088-821-4638（内線）3297 直通：同上 E-mail：310301@ken.pref.kochi.lg.jp

平成26年度 英語教育強化地域拠点事業

目的

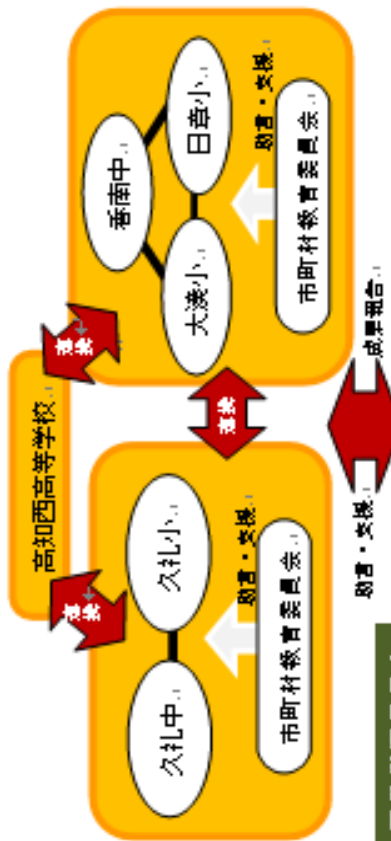
小学校における英語教育実施学年の早期化、教科化、指導体制の在り方や中学校英語による英語授業実施等、初等中等教育を通じた、系統的な英語教育についての研究開発を行い、その成果を県内へ普及・発信することで、英語教育の充実を図る。

平成26年度 高知県外国語教育推進プラン実施事業

高知県の英語教育推進プラン検討委員会

構成：有識者（県内大学教授等）、公立学校教員、教育行政関係者等
内容：英語教育中期行動プラン作成、小中高をつなぐ高知県別科目標の設定、カリキュラム等の作成等

英語教育強化地域拠点事業



連携委員会

構成：外郎有識者（県内大学教授）、視察校管理職、教員、市町村教委、県教委
内容：強化地域拠点校の取組の情報交換・発信・普及

高知県教育委員会

◆ 施策主導の定期的な支援訪問 ◆ 研究の進捗管理 ◆ 研究内容の県内への普及

県内小中学校への普及

外国語教育コア・ティーチャー育成事業

◆ 小・中学校の外国語教育を推進するコア・ティーチャーの育成
・3年間で80名（小中）育成
・小・中学校とも年間10名（H26～28）
◆ 集合研修5日、視察校研修2日、実践力向上研修2～4日

連携

国の推進リーダーの活用

◆ 強化地域拠点校のコア・ティーチャーも育成プログラムを推進

外国語教育コア・スクール実証研究指定事業

◆ 小中学校拠点校（コア・スクール）
小4校、中4校指定校
◆ コア・ティーチャーの研修提供
◆ 小中連携モデルの普及